

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】令和1年6月27日(2019.6.27)

【公開番号】特開2018-96418(P2018-96418A)

【公開日】平成30年6月21日(2018.6.21)

【年通号数】公開・登録公報2018-023

【出願番号】特願2016-240113(P2016-240113)

【国際特許分類】

F 16 F 15/14 (2006.01)

F 16 F 15/134 (2006.01)

【F I】

F 16 F 15/14 A

F 16 F 15/134 A

【手続補正書】

【提出日】令和1年5月22日(2019.5.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

互いに相対回転可能に連結される入力部材及び出力部材を有するダンパ装置本体と、前記ダンパ装置本体からのトルクを出力する出力軸と、前記出力軸に取り付けられる動吸振器と、を備える、ダンパ装置。

【請求項2】

前記動吸振器は、前記出力軸に取り付けられるベース部材と、前記ベース部材と相対回転可能に配置される質量体と、を有する、請求項1に記載のダンパ装置。

【請求項3】

前記ベース部材は、第1貫通孔を有し、前記出力軸は、前記第1貫通孔に嵌合する、請求項2に記載のダンパ装置。

【請求項4】

前記出力軸は、前記第1貫通孔にスプライン嵌合する、請求項3に記載のダンパ装置。

【請求項5】

前記ベース部材は、前記第1貫通孔を含むボス部を有する、請求項3又は4に記載のダンパ装置。

【請求項6】

前記出力部材は、凹部を有しており、前記ボス部は、前記凹部に嵌合する、

請求項 5 に記載のダンパ装置。

【請求項 7】

前記ボス部は、前記凹部にスplain嵌合する、  
請求項 6 に記載のダンパ装置。

【請求項 8】

前記凹部は、第 2 貫通孔として形成される、  
請求項 6 又は 7 に記載のダンパ装置。

【請求項 9】

前記質量体は、前記ベース部材に対して周方向に揺動し、前記ベース部材の回転中心と異なる位置に配置された揺動中心を有する、  
請求項 2 から 8 のいずれかに記載のダンパ装置。

【請求項 10】

前記動吸振器は、  
前記出力軸の回転による遠心力を受けるように配置された遠心子と、  
前記遠心子に作用する遠心力を円周方向力に変換するカム機構と、  
をさらに有する、請求項 2 から 8 のいずれかに記載のダンパ装置。

【請求項 11】

前記ベース部材は、本体部と、前記出力軸から前記本体部に入力されるトルクの伝達を制限するトルク制限部をさらに有する、  
請求項 2 から 10 のいずれかに記載のダンパ装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0073

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0073】

トルク制限部 31d は、摩擦力によって、出力軸 5 から本体部 31c に入力されるトルクの伝達を制限する。トルク制限部 31d は、付勢部材 31e を有している。付勢部材 31e は、軸方向において、本体部 31c をボス部 31b の取付部 31f に向かって付勢している。なお、ボス部 31b は、ボス本体部 31g と取付部 31f とを有している。ボス本体部 31g は円筒状であって、出力軸 5 に取り付けられている。取付部 31f は、ボス本体部 31g から径方向外側に延びている。取付部 31f は、円板状である。付勢部材 31e は、本体部 31c の内周端部と当接している。本体部 31c は、取付部 31f と付勢部材 31e とによって挟持されている。